地域づくり表彰

団体名　Sasebo Change（ｻｾﾎﾞ ﾁｪﾝｼﾞ）

団体名（長崎県佐世保市）

Sasebo Change
～高校生が創出した佐世保の未来～

創設者＆
初代代表
ベリー　理彩



１．佐世保市の概要

佐世保市は、長崎県北部に位置し、かつて旧海軍の軍港として開港して以来、「海軍さんの港まち」として多様な人々を受け入れ発展してきました。戦後は米海軍基地が置かれたことで、多様な文化が混在する異国情緒あふれる独特の街並みと風土が形成されています。

市街地には日本一長いアーケード（さるくシティ 4〇3（よんまるさん）アーケード）が伸び、ハウステンボスや西海国立公園「九十九島」をはじめとする豊かな自然や観光資源、名物「佐世保バーガー」「レモンステーキ」などのアメリカ文化が色濃く残る食文化が根付いています。

また、長崎県と佐賀県にまたがる 12 市町による「西九州させぼ広域都市圏」の連携中枢都市としても重要な役割を果たしています。



西海国立公園「九十九島」

２．団体の概要

「Sasebo Change」は、学校の枠を超えた高校横断型サークルです。

創設者であり初代代表のベリー理彩氏が、高校 1 年時に参加した東京の大学のオープンスクールで「佐世保の学生と社会との接点の少なさ（機会格差）」を痛感したことをきっかけに、2024 年に自発的に設立されました。

若者自身の「やりたい」という純粋な想いや衝動を起点として活動を展開。

佐世保特有の地域資源なども活用しながら、高校生が地域課題解決の「主体（イノベーター）」として社会と対等に関わる仕組みを構築しています。



発足のきっかけ「未来ﾃﾞｻﾞｲﾝ会議 returns」

３．団体発足と活動への想い

地方に暮らす高校生は、日常的な人間関係が学校や家族、友人に限定されがちで、社会や多様な世代と関わる機会が多くありません。

この構造的な課題を打ち破るため、特定の学校に縛られない独立した高校横断型組織として発足しました。

従来型の地域づくりでは「関係人口創出」「地域活性化」といった大人の目的を若者に課しがちですが、Sasebo Change では「若者の自己実現・青春時代の成功体験など」を活動の入口に据えています。

一見、個人起点で始まった活動を、大人が丁寧に伴走支援して行政や地域へ繋ぐことで、結果（出口）として国のあらゆる地方創生施策のゴールに合致したというイノベーションを体現しています。



第１回サセボチェンジワークショップ

４．活動の内容

本活動は、高校横断型サークル「Sasebo Change」のメンバーが主体となり、地域の多様なセクターと協働して展開する４つの地域共創プロジェクトです。

①国際交流：佐世保市特有の環境である米海軍基地に着目。

基地内の高校生団体「KeyStone」と連携し、棚田保全に取り組む地元企業との共同稲刈り体験や、音楽フェス「JAM FES」への共同出演などを企画・実施しました。

行政や地域の大人も踏み込めなかった、高校生独自の国際交流ネットワークを構築しています。

②多世代交流：地域の老人会への参画、百歳体操企画（マツケンサンバ体操）、昔の白黒写真のカラー化を通じた「街の歴史復元」、市の福祉部署と連携した認知症カフェの開催など、高校生の柔軟な発想で高齢者福祉の場に新しい風を吹き込みました。

③星きらり：市少年科学館「星きらり」でのイベントボランティアや高校生主体でのプラネタリウム運営、日米合同「英語プラネタリウム」の開催、オリジナルプラネタリウムのストーリーの企画検討などを実施し、施設の認知向上、利用促進を行いました。

④MR：高校生の通学インフラである「松浦鉄道（MR）」の車両を 1 日貸し切った「高校生 MR 甲子園」開催などを通して、新たな活用方法の検討を行いました。

その他にも「高校生ボランティア養成講座」の開催や、四ヶ町アーケードを貸し切った 50m 走イベントなどを高校生自らが企画・運営し、地域インフラや商店街の新たな価値と賑わいを創出しました。



サセボチェンジ4つのプロジェクト

５．創意工夫

【ボトムアップ型で行政制度創出】

活動費不足という学生共通の課題に対し、代表者であるベリー氏が令和6年12月に開催された「若者活躍フォーラム」の場で佐世保市長へ直接提言を敢行。

これが実を結び、佐世保市役所に「若者活躍プロジェクト活動支援事業補助金」が新設されました。

一サークルの声が市全体の若者支援制度を動かした画期的な事例です。



市長へ提言する様子（若者活躍フォーラム）

【官民・学校との連携協定と中間支援組織の設立】

高校生の活動の障壁を取り除くため行政や各高校へ直接働きかけた結果、若者と地域を繋ぐ中間支援組織として「一般社団法人Tsunagas（ツナガス）」が市と連携して設立され、地域全体で若者の挑戦を支える持続可能なインフラが整備されました。

また、佐世保市と市内12高校による「若者活躍に関する連携協定」が締結され、学校と行政が一体となって、若者の活躍を応援する基盤づくりに尽力しました。



一般社団法人Tsunagas



市内12高校との連携協定

【離郷後も関わり続ける「遠隔×対面」伴走モデル】

リーダー等の進学・離郷後も、佐世保への帰郷（対面対話）とオンライン（ZOOM等）を組み合わせたハイブリッド型の伴走体制を構築。

都市部へ進学した卒業生が「関係人口」として地元に関わり続け、現役生をサポートし続ける持続可能な組織運営モデルを創設者であるベリー氏が都市部の大学に在籍しながら実証しています。



関東の大学に進学したベリー理彩氏

【伴走支援者（地域の大人）の存在】

若者の主体性を尊重する一方、安全面・法令遵守・資金確保・行政や学校との事前調整・つなぎ役といった「高校生では越えることが困難である壁」をサポートする伴走支援者として、古川拓也氏（現一般社団法人Tsunagas代表理事）や行政、地域の大人が重要な役割を果たしています。

支援する側・される側という一方的な支援関係に陥りがちな若者支援において、あくまで双方にとって「Win-Win となること」を前提に想いを共有。

この対等な共感が地域に広がることで、多種多様なセクターを巻き込む大きな地域活動へと昇華させました。



若者支援意見交換（大人の探究ラボ）

６．成果

30 人規模からスタートした団体も現在では、公式LINEに市内の高校生が300名超登録、イベント時には、高校生ボランティア100名を参集できる団体に成長しました。

四ヶ町アーケードイベントのSNS総再生回数は320万回を突破するなど、若者視点での発信力を武器に活動を広く遡及しました。

探求活動の甲子園と言われるNPOカタリバ主催「全国高校生マイプロジェクトアワード」に全国3，250のエントリーから選出（通過率2%）、「SASEBO若者活躍アワード2025」出場するなど、高校生を「施策の受益者」から「地域運営の主体」へと転換させ、行政・学校・地域を巻き込んだ構造的変革を達成しました。

また、高校生時代に支援を行い、若者に社会との接点や成功体験を得てもらうことで、卒業、進学時には「関係人口」となって、地域と関わり続けるという、この一連の取組が評価され、総務省の「ふるさと住民登録制度」のモデル自治体として佐世保市が選定されました。

７．今後の展望

一人の特別な高校生の情熱、夢を実現させるというフェーズから、地域の大人や中間支援組織を巻き込んで、地域全体で支える「誰もが普通に挑戦できる地域」にするための挑戦を続けていきます。

「高校生でも地域で挑戦するのが当たり前」という文化を佐世保に定着させ、全国の自治体や若者が模倣・再現できる地域づくりのロールモデルとして発信を続けていきます。